



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



年頭にあたり

歯学部長 宮崎 隆

新年おめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。今年も変化の多い激動の社会になりそうですが、私たちは常に原点に立ち戻り、次世代に必要とされる資質の高い歯科医療人の教育を進めていきたいと思います。少子超高齢社会に突入し、若い方は社会の宝です。歯科界においても意欲のある若者が参入して、国民のため、社会のために活躍しなければ衰退します。



私たちは過去20年間、全学的に教育改革を進めてきました。その中心は初年次全寮生活を皮切りに、全学年を通じたチーム医療教育です。医歯薬保健医療学部の学生が、それぞれの専門性を尊重しつつ、共通の視点で学習する環境は他の大学にはありません。さらに、歯学部では高齢者医療への対応をするために、教育組織の見直しを進め、他大学や地域歯科医師会との連携を進めてきました。

文部科学省の補助金事業で進めてきた「ITを活用した超高齢社会に対応した歯科医師の育成」プロジェクトは5年間を終了しましたが、最終評価でスーパーのS評価を受けることができました。これは片岡教育推進室長以下の関係者のご尽力のおかげです。北海道医療大学、岩手医科大学そして地域歯科医師会の先生がたと一緒にEラーニングや電子ポートフォリオ、バーチャルペーシエントなど新しいIT教材を作成し、各大学の授業に活用してきました。学生には能動的学習を促してきました。最終的には学生が卒業後も生涯にわたり学習を継続し、社会貢献することが望めます。今後はこの教育効果を検証して、自信をもって教育を実践していきたいと思えます。

大学の世界ランキングを向上させるためには、研究の活性化が待たなしです。全学的に科学研究費の申請・採択件数を向上させるために、新しい研究費配分制度が始まります。歯学部は、上條研究推進委員長を中心に高い申請率と採択率を得てきましたが、年々厳しくなっているのをさらに頑張らねばなりません。また、従来は学部長が研究科長を兼務していましたが、新

年度(4月)から分離することになりました。学長からは次の世代の研究を牽引する体制を整えるようにと指示ができています。

榎病院長のリーダーシップで、歯科病院は昭和大学の8病院の中で規模は小さいですが、特徴ある専門病院として運営されています。歯科病院は歯学部の教育病院であるとともに地域歯科医療の中核病院でもあります。医科の新しい専門医制がスタートして、臨床研修を修了した医師は専攻医として診療科で専門医プログラムに基づいた研修を受けることになりました。歯科の専門性については厚労省の委員会で検討され、第三者認証機関設置の検討も進められています。本学においても、学会と連携して研修プログラムを整備して専門医の育成と各診療科の専門性を明確にする必要があります。

今年も歯学部の教育・研究・診療がさらに充実するよう、関係者のご支援を宜しくお願い申し上げます。

OSCE が実施されました

OSCE 委員会 委員長 菅沼 岳史

平成29年度共用試験OSCEが1月21日(日)に歯科病院において実施されました。評価、運営に関わったスタッフは、教職員168名、SP15名、機構モニター2名、外部評価者6名の合計191名で、105名の学生が受験しました。今回は例年と異なり、土曜日の午後の外来を行いながらの準備となりましたが、関係各部署の方々の御協力により、前日の打合せとテストランを行うことができました。当日は、受験生の遅刻や大きなトラブルもなく無事に終了することができ、一部の課題で基準に満たない学生がいましたが、合計点では全員が基準をクリアして合格しました。また、禁忌肢が設定された課題が2つありましたが、昨年のように部位を間違える学生は1人もありませんでした。

終了後の反省会において、運営面に関していくつか問題点が指摘されました。解決の難しい問題もありますが、歯科病院という限られた環境の中で公平かつ効率よく実施できるように、次年度の委員会でこれらの問題点を検討したいと思います。

週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

D4臨床実習 I が始まります

歯科保存学講座 総合診療歯科学部門
長谷川 篤司

米国ECFMG(Educational Commission for Foreign Medical Graduates;外国医学部卒業生のための教育委員会)から「2023年以降は世界標準の教育レベルを公的に認証された医学部の卒業生でなければ、米国の医師免許試験を受験できない」ことが通告されました。日本で世界水準の医学教育を実施していることを証明するために、JACME (Japan Accreditation Council for Medical Education;日本医学教育認証評価協議会)が設立され、グローバルスタンダードに基づくプログラム評価を行っているWFME(World Federation for Medical Education;世界医学教育連盟)の認証制度の基準に基づいた医学教育に特化した分野別認証評価の環境整備が進められており、歯学部においても医学教育に特化した分野別評価の環境が整備され、いくつかの大学歯学部または歯科大学でトライアルが開始されています。

本学でも臨床教育の喫緊の課題として、ここ数年にわたって診療参加型臨床実習の充実に着手しており、昨年度の「教育者のためのワークショップ」において診療参加の機会を増加させるために臨床実習期間の延長を検討しました。その方略として、現状の第5学年臨床実習(新臨床実習Ⅱ:44週間)に加えて、臨床参加の準備教育知識として第4学年に臨床実習Ⅰ(6週間)を新設するとともに、第6学年の旧選択実習をすべて臨床診療科で実施することとした臨床実習Ⅲ(6週間)を設置しました。

平成29年度内に開始される第4学年臨床実習Ⅰとして、平成30年2月15日から3月23日までの6週間が予定されています。第1~2週は、臨床実習に参画する心構えなどに加えて、医療安全などの必須項目を講義と演習中心に学修します。第3~6週の午前は、5名程度の小グループに分かれ、ローテーションで20項目の臨床基本技能を学修するだけでなく、模擬カルテへの記載や電子ポートフォリオへの提出などの習慣も身に着けます。また第3~6週の午後は、国家試験の必修問題レベルの知識を臨床の場で適切に応用できることを目標に、必須知識を学修(演習)します。第5学年の臨床実習Ⅱをより充実した44週間にするために、臨床実習Ⅰを是非とも成功させたいと考えています。学部全体のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

認定医取得

広報委員長 中村 雅典

●日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士:
上杉 雄大(口腔リハビリテーション医学部門)

日本歯周病学 Young Investigator Awardを受賞しました

歯周病学講座 中村 紫野

平成29年12月16・17日に行われた日本歯周病学会60周年記念京都大会において、「蛍光/ラマン強度比を用いた歯石の有無の評価」という演題で、SUNSTAR Young Investigator Awardを受賞いたしました。記念大会ということで、これまでの歯周治療の歴史や、医科歯科連携に重きをおいた大変すばらしい大会でした。このような大会で発表の機会をいただき、またご評価いただき光栄に思います。研究テーマは、ラマン分光法という手法で歯根面に沈着した歯石を検出し、その有無を客観的に評価する原理の確立です。臨床に直結する興味深い研究テーマであり、これまで国内外の学会で発表してきました。しかし、臨床応用するにはまだ解決すべき課題が多く残っており、さらなる研究が必要です。

今回の受賞が私の研究分野の小さな突破口となることを期待しております。研究の計画と過程において、山本松男教授をはじめ共同研究者と医局員には多くの示唆と助言をいただきました。また今後の成果をご報告することを目標にして、日々努めたいと思います。



第65回国際歯科研究学会日本部会で2017JADR/Joseph Lister Awardを受賞しました

歯学部4年 南 えりか

平成29年11月18日・19日、昭和大学にて第65回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会が開催されました。私は「Cdc42によって制御される口蓋形成の分子メカニズム」の演題でポスター発表をしました。幸運にも2017JADR/Joseph Lister Awardにて2位を頂くことができ、大変嬉しく、また光栄に思います。他大学の先生方とも研究について議論することができ、たくさんの刺激を受けることのできた貴重な経験となりました。



今回、ご指導・ご協力いただきました口腔生化学講座の上條竜太郎先生、山田篤先生、講座の皆様、国際交流センターの橋本みゆき先生、Mike Myers先生、平泉由香先生、そして多くの協力してくださった方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

D5三大学学生交流が開催されました

高齢者歯科学講座 佐藤 裕二

教員同士の連携だけでなく、学生間の交流を深めるために、2年前からSkypeを用いた学生交流が行われてきましたが、文科省IT連携事業が終わった今年度も、継続されています。

三連携大学(北医大, 岩手医大, 昭和大)は、同じIT教材を用いて学んでいますが、5年生ではそれぞれが地域性に応じた特色のある臨床実習を行っています。この体験を共有することで、学生の視野を広げることがねらいです。

事前に各大学学生の発表ファイルをサーバーにあげて閲覧し、web掲示板で学生同士の活発な質疑応答が行われました。

1月16日(火)の夕方から、歯科病院臨床講堂で各大学の発表と質疑応答がSkypeを通じて、1時間半にわたって、北海道医療大学の越野寿教授の司会で行われました。

北海道医療大学では、高機能患者ロボット、相互実習、訪問診療、施設実習、開業医実習、病院実習などの多様な実習が組み合わされていることが特徴でした。

本学では、高齢者歯科臨床実習の他に、VP、学部連携PBL、附属病院実習、高齢者施設実習(個人宅含む)、4学部連携チーム医療実習といった特徴を説明し、知識、技術、連携、心の重要性を強調した発表でした。

岩手医科大学では、介護体験実習、地域医療体験実習、摂食嚥下リハビリ実習に加えて、充実した診療参加型実習が特徴でした。

本学の学生たちはわかりやすく素晴らしい発表と、堂々とした質疑応答を行い、誇らしく思いました。教員もおおいに刺激を受け、連携することのメリットを改めて感じた交流会でした。終了後には、関係した教員の個人的なご厚意により、学生の慰労会が行われ、多くの感想や意見を聞くこともできました。

お世話になりました多くの教職員に深く感謝いたします。



三大学学生交流におけるSkype討論を終えて

歯学部5年 大竹 開, 片山 卓也,
中田 雅昭, 田原 広子, 福村 優華

昭和大学と岩手医科大学と北海道医療大学の3大学間の5年生の学生で、「高齢者と関わる施設実習や地域医療についての実習」に関してのSkypeを用いた討論会を行いました。昨年の7月29日に日本歯科医学教育学会学術大会におけるポスター発表を行ったうえで、再び三大学間の交流の機会を設けていただき、意見交換をしました。これは、文部科学省大学関連共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の一環です。

私達は1~4年までの基礎実習や地域連携の実習の内容に加え、5年生での高齢者歯科外来、施設実習、訪問歯科実習、さらには附属病院での実習や、PBLの実習の内容や学んだこと、感想について発表しました。特に、学部連携のPBL実習は昭和大学が独自に行っていることでもあるため、2大学から関連した質問や、意見が寄せられました。

今回の発表を通して、5年生の臨床参加型実習で、4年生までの基礎実習で学んできたことや、その目的を再確認すると同時に、実際に患者さんと接することで今まで学習したことの知識と理解を深めることができました。また、他大学が取り入れる教育プログラムを共有することで、俯瞰した考えを持つことを学びました。

他大学の超高齢社会に対する取り組みについての発表を聞き、それぞれの大学が行っている臨床実習の特色や、高齢者歯科実習の概要を学ぶことができ、良い刺激となりました。

昭和大学の代表として、Skypeによる討論会に参加し意見を交わすという貴重な経験をさせていただき、自身の成長につながったと同時に大きな自信となりました。

最後になりましたが、今回このような機会を設けていただきました、佐藤教授をはじめご指導いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。



海外選択実習の現状

国際交流担当(口腔微生物学講座)
桑田 啓貴

昭和大学では、国際的な視野を持った医療人を育てることを目標に国際交流活動を活発に推進しています。現在の主な取り組みの一つとして、6年生対象の海外選択実習で学生派遣を行っています。派遣先は、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)、南カリフォルニア大学(アメリカ)、香港大学(中国)、天津医科大学(中国)、台北医科大学(台湾)、慶熙大学(韓国)、トリサクティ大学(インドネシア)、マハサラスワティ大学(インドネシア)、モンゴル健康科学大学(モンゴル)などです。いずれも海外の有名大学であり、昭和大学との姉妹校協定に基づき、学生・教員の相互訪問を行っています。加えて、ポートランド州立大学春季プログラム(2~4年)および夏休みのUCLA大学サマープログラム(3年)などを通じた海外学習プログラムにも参加可能です。マダガスカル口唇口蓋裂医療協力への参加も高い評価を受けています。派遣に加えて、海外からの受け入れについても同様に積極的に行っています。今年度も多くの海外大学からの歯科病院への見学受け入れ、大学院留学生を受け入れました。このように、歯学部では様々な手段を通じて、海外の大学との国際交流を推進していますので、多くの学生のみなさんの積極的な参加が期待されます。



さらに2~3年時の基礎系教室で実施される「研究入門」で優れた研究に取り組んだ学生を対象としたアドバンスな国際交流も紹介しましょう。英語力および研究力の両方を兼ね備えた学生については、特別に国際的な研究発表の機会が認められ、アジア太平洋地域歯学生連盟主催のAPDSA大会あるいはデンツプライ主催SCRIP大会への参加が認められます。海外で研究発表を行う場合、「学生海外実習補助金制度」により補助金が支給されますので、積極的に活用してください。申込みには、TOEIC/TOEFL/英検などの語学力を証明する書類が必要です。

今後の昭和大学歯学部の国際交流のさらなる発展が期待されます。



大学院春期Ⅰ期入試が行われました

大学院運営委員長 山本 松男

平成29年12月2日に大学院春期Ⅰ期入学試験が、外国語(一般英語および科学英語)および専門科目について実施されました。12月21日に合格発表があり、一般選抜10名、社会人選抜1名が合格しました。今年度の春期Ⅰ期入試は、平成28年度と比べて4名入学者が増えました。春期Ⅱ期入試は平成30年2月17日(土)に行われます。出願期間は平成30年1月9日(火)~1月31日(水)です。春期Ⅱ期入試で優秀な大学院志願者が多数受験してくれることを願っています。

大学入試センター試験が実施されました

入試常任委員 山本 松男

1月13日、14日の週末二日にわたって独立行政法人大学入試センターが実施する大学入学者選抜大学入試センター試験(以下、「センター試験」)が実施され、全国では58万人ほどが受験しました。本学では8年前から共立女子大学との共同実施となり会場も千代田区にある共立女子大学校舎をお借りする形になっているために、旗の台で開催していた頃が懐かしく感じられます。今年は日本海側を中心に記録的な大雪となりましたが、関東では大きな混乱もなく、無事終了しました。本学の体制としては、入学支援課を核に4学部から多くの教職員に運営や監督業務の協力をいただいています。共立女子大学の会場で受験をした受験生が必ずしも本学を受験するとは限りませんが、センター試験利用の受験種別をもつ実績に応じてセンター試験運営を支えるという仕組みになっています。歯学部ではセンター試験利用としてⅠ期約10名、Ⅱ期約3名の募集に対して、例年それぞれ約200名、約30名の応募があります。

教職員の皆様におかれましては、日頃の学生教育や診療に加えて、試験当日は朝早くからご協力をいただき誠にありがとうございました。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 2月3日(土)・4日(日): 第111回歯科医師国家試験
- 2月11日(日): 大学入試センター試験利用入試
(B方式・地域別選抜)
- 2月16日(金): 白衣授与式
- 2月17日(土): 大学院歯学研究科春期Ⅱ期選抜入試

編集後記

口腔解剖学講座 野中 直子

入試シーズンのお忙しい中、原稿執筆にご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。

